

企業の動向 内々定率7割、前年より1カ月早いペース

3月1日に2026年卒の採用広報が解禁されてから1カ月余。3月末時点の内々定率は、学情の調査で69.7%と早くも7割に迫った。前年同時期より16.0ポイントも高く、1カ月早いペースで内々定出しが進んでいる。同調査によると、学生が内々定を得た企業にエントリーした時期は24年6~7月が突出して多く、最終面接の時期は24年12月と25年1月が前年比5~6ポイント増えたのが目立った。夏のインターンシップ等に参加した学生に対し、年末年始に集中して内々定出しが行われたことが読み取れる。

三十数人を採用する予定の大手IT企業では、内々定出しが前年同期の約1.2倍、学生の承諾率も1.3倍と順調に推移している。同社は25年卒では12月ごろだったインターンシップ等の開始を秋に早めており、その成果が出たとみられる。早期実施が早めの内々定出し

27卒向けイベントも本格化

につながっているのは間違いないようだ。

一方、ある大手化学メーカーでは、内々定出しのペースは順調だが、採用予定数が90人規模と多いこともあり目標数に届く見通しは立っていない。このため、新卒の補填として6月ごろから第二新卒採用を実施し、20代社員を確保する計画を立てている。

26年卒生の内々定率調査では、インターンシップ等に最初に参加した時期について、3年生になる前と答えた学生が計16.5%いた。27年卒以降の学生はさらに早めに動き出しており、26年卒向け合同企業セミナーに主な対象より下の学年で参加するケースが、前年同期のイベントに比べて倍増している。4月からは27年卒生を対象にしたインターンシップ等の合同企業セミナーが本格化。出展企業、学生双方にとって熱量の高いイベントが各地で開催されている。

(フィールドセールス本部 金岡 真実)

学生の動向 26卒は高い内々定率で3人に1人が就活終了 27卒生の動きが加速

例年、2月から3月の大学のキャリアセンターは、エントリーシートや履歴書の添削、面接に関する相談が増えて大忙しの時期。しかし、今年は職員から「2月の相談件数が減っているように思う。1月のほうが忙しかったかもしれない」との声が聞かれた。インターンシップ等からの早期選考が進んだことで学生の動きも早まり、キャリアセンターへの相談件数のピークが1月となった大学もあったようだ。

学情の調査では、3月末時点で内々定を獲得した学生は69.7%の高率となった。中でも大手有名企業が積極的に内々定を出しているため「本命企業」からの内々定を得た学生が多く、「就職活動をしている」学生は前月比-20.5ポイントの63.3%に急落。その分、「内々定を獲得し就活を終了」した学生が前月比+20.2ポイントで31.9%に急増した。

採用広報解禁1カ月ですでに3人に1人が就活を終えたことになる。

各大学では今後、学生の就活進捗状況を確認しながら、個別対応や小規模な学内企業説明会などで、出遅れ気味の学生支援にあたることになるだろう。

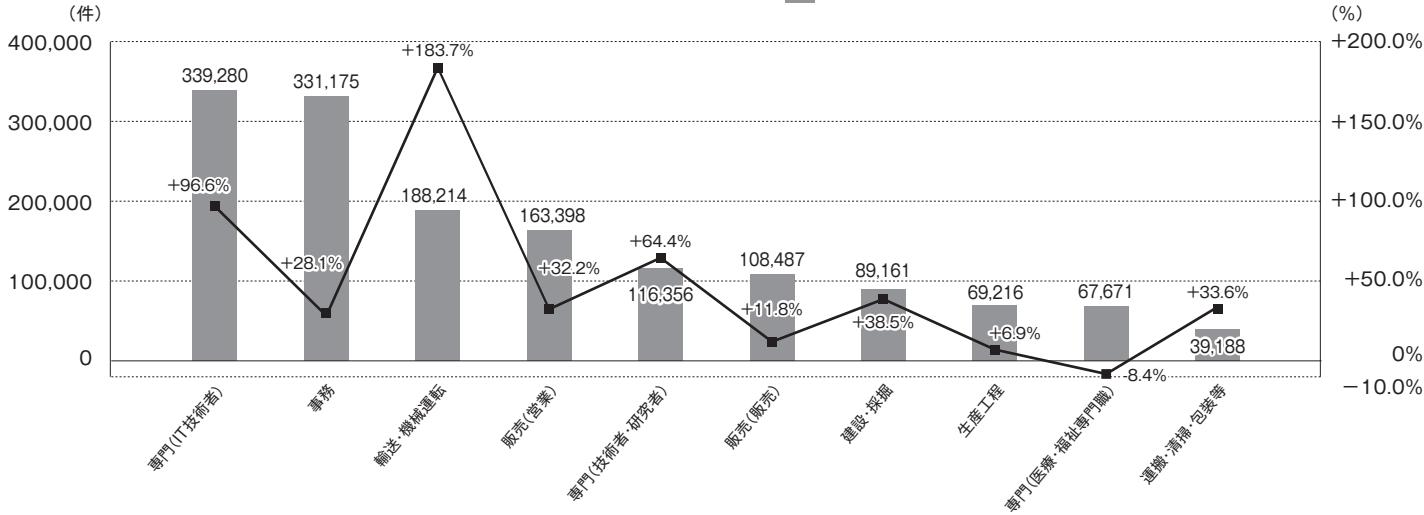
そんな26年卒生を横目に、27年卒生のインターンシップ等に向けた動きが加速している。大学では就活キックオフガイダンスを前倒しして実施するなど、早期化の流れに学生が対応できるよう工夫をこらしている。4月に各地で開く学情のCareer Design Forumでは学生のための「大学キャリアセンター相談ブース」を設けているが、今回は全国5会場で47校もの大学が参加する見込みだ(前年は東京・大阪会場のみで24校)。早期化を受けた新たな支援強化の動きといえそうだ。

(キャリアサポート部 小島 明代)



求人広告掲載件数等集計結果（2025年2月分）

職種別件数(正社員)および対前年同月比



2025年2月の求人広告掲載件数のうち、正社員雇用における職種別の最多は「専門(IT技術者)」で339,280件(対前年同月比+96.6%)。「事務」331,175件(同+28.1%)、「輸送・機械運転」188,214件(同+183.7%)と続く。職種全体(正社員)では1,673,157件で対前年同月比は+44.5%。

*求人広告掲載件数は主要15社の広告データを集計し、週平均値を算出。

出典:公益社団法人全国求人情報協会「求人広告掲載件数等集計結果(2025年2月分)」、グラフは株式会社学情作成